

次世代につなぐスタートの日に

シンポジウム「酪農教育ファーム 20 年を節目に」

Interview



中央酪農会議 内橋 政敏事務局長に聞く

酪農教育ファーム推進委員会と（一社）中央酪農会議は 9 月 22 日、酪農教育ファーム推進委員会設立 20 周年を記念して、酪農教育ファームシンポジウム「酪農教育ファーム 20 年を節目に」を開催します。

シンポジウム開催を前に、酪農教育ファーム活動のこれまでの歩みやシンポジウムの趣旨について、ご紹介します。

酪農教育ファーム 20 周年シンポジウム 開催にあたって

酪農教育ファーム活動は 20 年

Q 酪農教育ファーム推進委員会が 設立されたときの背景は？

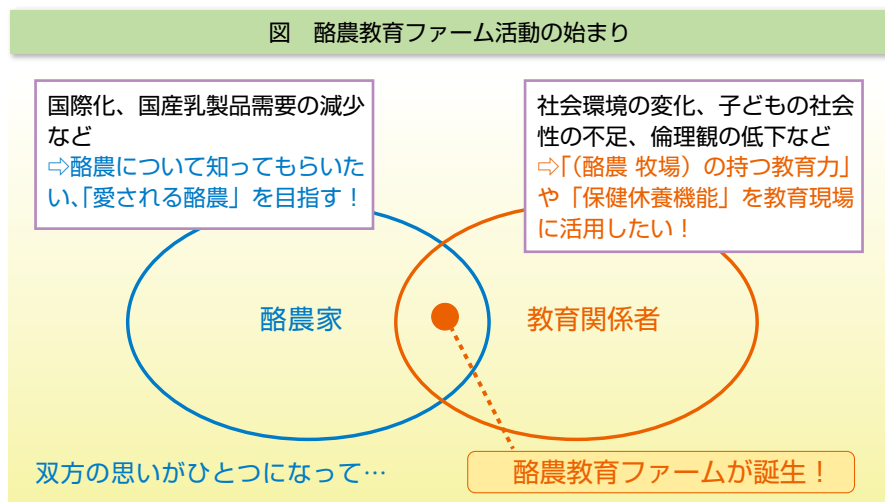
酪農教育ファーム活動は、消費者に愛される酪農を目指す酪農家の思いと、酪農の持つ教育力を活用したいという教育関係者の思いが一体となって始まりました。

国際化の進展や国産牛乳乳製品の需要の減少、国のグリーンツーリズム推進などを背景に、酪農家の中に、消費者に酪農についてもっと知ってもらい「愛される酪農」へ転換しよう、地域社会のなかで酪農家の顔が見える消費者コミュニケーションの確立を目指そうという思いが芽生えました。

一方、都市化や過疎化、

核家族化などの社会環境の変化、子どもによる残忍な事件の発生など、子どもの社会性の欠如や倫理観の低下などによって、教育も変化を求められました。そうしたなか、学校現場においては、酪農（牧場）の持つ教育力や癒しの力を教育現場に活用して、いのちや食について学ばせたいという思いが生まれてきました。

図 酪農教育ファーム活動の始まり



このように酪農家と教育関係者双方の思いが合致したため、本会議は1998年7月に酪農関係者や教育関係者などから成る「酪農教育ファーム推進委員会」を設立し、組織的な活動を開始しました。これは、日本で初めての全国的な教育ファーム推進組織であり、酪農や国産牛乳乳製品の理解醸成とともに、牧場を「教育の場」にふさわしい機能と環境を整えた「酪農教育ファーム」として整備し、酪農家を「指導者」としてふさわしいよう啓発・指導することを目的にしたものです。

Q これまでの酪農教育ファーム活動で「深み」を増した部分は？

活動を、より実のあるものにするため組織体制や規程をブラッシュアップしてきました。

「『いのち』や『食』を大切に作る気持ちを育んでもらいたい」、「酪農という『しごと』を知ってもらいたい」などといった酪農家の根本的な気持ちは変わりませんが、組織としての活動は、酪農や教育を巡る情勢を踏まえて変化させています。

認証牧場数が順調に増加していくなか、2005年には「地域推進委員会」（全国9カ所・事務局：指定生乳生産者団体）を設立しました。また2008年には、酪農教育ファーム活動にふさわしい人材育成、活動の質的向上、方向性の統一を目的に「ファシリテーター」という概念を導入しました。これによって、酪農教育ファームを「場（＝認証牧場）」と「人（＝ファシリテーター）」に分けた認証制度になりました。

ファシリテーターは3年に1回、スキルアップ研修会を受講すること等で認証を更新できます。そこでは酪農教育ファーム活動の基本である「安全・衛生・防疫対策」について確認するとともに、講師や他地域からの参加者との情報交換などを通じて自らの活動を磨いています。また、2014年には、酪農教育ファーム活動のあり方を見直すために「専門委員会」を設置し検討を開始。2016年3月に、活動をさらに発展させるための「提言」を取りまとめました。この提言を踏まえ、2016年6月には認証規程を改正し、酪農教育ファーム

活動の目的を「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」に変更しました（改正前：「酪農体験を通して食やいのちの学びを支援する」）。

さらにこの間、口蹄疫や鳥インフルエンザの発生等も踏まえ、都度、「安全・衛生・防疫」対策に関する認証規程の改正も実施してきました。

Q 20周年記念を「シンポジウム」という形で表現する理由は？

20年の節目の取り組みで目指す「目的」は四つあります。①酪農教育ファーム活動の原点、歴史、現状を確認すること、②酪農教育ファーム活動の価値と役割を活動の実践者で共有するとともに、次世代につなげること、③酪農教育ファーム活動は、指定団体・酪農家・教育関係者などが連携して行なう酪農産業ならではの価値ある社会貢献であることを踏まえ、国が取り組む食育推進に係る動きも意識しつつ、活動の価値と役割を、認証を取得していない酪農家を含め広くPRすること、④これらを踏まえ、活動の実践者のモチベーションを高め、さらに発展するための活動のあり方を追求すること。

これらの目的を果たすため、三つの取り組みを行ないます。「シンポジウム」の開催はそのうちのひとつです。酪農教育ファーム活動がさらに発展するために、多様な立場から意見交換をする場として「シンポジウムが適当」と判断したわけです。

酪農教育ファーム、その近未来像は？

Q 最近の認証牧場や認証牧場に関する特徴的な動きは？

地域推進委員会の積極的な取り組みのおかげで毎年新規認証牧場の申請があり、酪農家戸数が減少する中で、酪農家戸数に占める認証牧場の割合は年々増加しています（3月末現在、約300牧場）。

今、増加しているのは農業高校で、今年3月末現在11校が認証を取得しています。これらの農業高校ではファシリテーターの認証を取得した教員の指導の下、生徒達も近隣の小学生等の受入対

応をすると聞いています。そうした活動が、将来の酪農の理解者や応援者、そして、将来の酪農家を育てることにつながると期待しています。

認証牧場における受入先も小学校などを中心に、毎年、数十万人の方が認証牧場を訪れており、酪農教育ファーム活動が教育現場に定着してきたことが伺えます。

ファシリテーターの認証について、最近では後継者や従業員など若い世代の認証取得が多くなってきました。親子2代での認証というケースもあります。また前述の農業高校の教員や大学生などの認証取得も増えてきており、酪農教育ファーム活動に新しい芽が出ているように感じます。

次世代につなぐスタートの日に

Q 認証牧場とシンポジウム参加希望者へのメッセージは？

シンポジウムでは、実践発表等を通じて酪農教育ファームのこれまでのあゆみを確認するとともに、活動を未来につなげるためのパネルディスカッションを予定しています。活動を実践する酪農家や教育関係者はもちろん、酪農教育ファーム活動に関心を持つ読者の皆さまなど、可能なかぎり多くの方のご参加をいただければと思います。シンポジウムの日を、酪農教育ファーム活動の価値と役割を共有し、それを次世代につなぐスタートの日にしたいと願っております。

シンポジウム開催告知

酪農教育ファーム20年を節目に

酪農を通して食・しごと・いのちの学びを未来につなぐ

2018年、酪農教育ファームは組織的な活動を始めて20周年という節目を迎えます。そこで一般社団法人 中央酪農会議および酪農教育ファーム推進委員会は、酪農教育ファーム活動の原点、歴史、現状を確認し、その活動の価値と役割を共有し次世代につなげるため、シンポジウムを開催します。これにより、酪農教育ファーム活動のさらなる発展を目指します。

- 主催：一般社団法人 中央酪農会議／酪農教育ファーム推進委員会
- 協力：地域交流牧場全国連絡会、日本酪農教育ファーム研究会
- 開催日時：平成30年9月22日（土）シンポジウム13:00～17:00、懇親会17:30～19:00
- 開催会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 京橋（シンポジウムホール22A、懇親会ホール22B）
東京都中央区京橋2-2-1 京橋エドグラン22階
- 主なプログラム
 - ・実践発表酪農家や教育関係者等による実践発表
 - ・パネルディスカッション「酪農教育ファームの未来」(仮称)
- 会費：シンポジウム 無料、懇親会 5,000円程度を予定
- 定員200人程度
- 申込方法

申込用紙に必要事項をご記入のうえ、平成30年7月31日までにお申し込みください。申込用紙は中央酪農会議ホームページからダウンロードできます (<http://www.dairy.co.jp/edf/>)。なお、メールでのお申し込みも可能です。
必要事項：①氏名、②所属、③住所、④連絡先（電話番号、携帯番号、FAX）、⑤e-mailアドレス、⑥酪農教育ファームファシリテーターですか？ はい・いいえ、⑦地域交流牧場全国連絡会の会員ですか？ はい・いいえ、⑧日本酪農教育ファーム研究会の会員ですか？ はい・いいえ

【問い合わせ】

一般社団法人中央酪農会議 業務部 担当者：阿南・齋藤
TEL 03-6688-9841 FAX 03-6681-5295
e-mail : anan@churaku.jp